

区でも資源ごみ分別収集を開始

経済大国として発展してきた日本。産業の進展とともに生まれてくる副産物、つまり“ごみ”の量は年々増加し続けています。生活が豊かになるに従って増え続ける“ごみ”は私たちにとってもっとも身近で重大な問題となっています。

都留市でも昭和60年頃からごみの量は年々増え続け、平成4年度には年間9,000トンに達しました。ごみ増大に何とか歯止めをかけようと減量対策のひとつとして、昨年度、宝地区をごみ減量モデル地区に定め、『混ぜればごみ、分ければ資源』を合言葉に、資源ごみの分別収集を実施しました。

宝地区のごみ分別収集は予想をはるかに上回る成果をあげました。これに引き続き、今年の6月には谷村地区で、7月には盛里・三吉・開地地区で資源ごみ分別収集が始まり、市民の皆さんのご協力を得て、これまで以上のごみ減量態勢を整えました。

6月に行われた宝地区・谷村地区の資源ごみ分別収集の結果は別表のとおりです。収益金は、地域の小・中学校の活動資金にあてられます。

なお東桂、禾生地区については地域コミュニティセンターを中心に実施に向けて協議を進めています。

谷村・宝地区資源ごみ分別収集実施結果（6月分）

	宝（6月6日）	上谷（6月13日）	中谷（6月20日）	下谷（6月27日）	合 計
紙 類	9,150kg	20,720kg	14,240kg	23,600kg	67,710kg
ビン類	ビールビン 1,680本 酒ビン等 1,021本 2,063kg	ビールビン 940本 酒ビン等 786本 1,369kg	ビールビン 1,454本 酒ビン等 639本 1,540kg	ビールビン 2,500本 酒ビン等 481本 2,031kg	ビールビン 6,574本 酒ビン等 2,927本 7,003kg
アルミ缶	100kg	150kg	75kg	114kg	439kg
合 計	11,313kg	22,239kg	15,855kg	25,745kg	(谷村地区63,839kg) 75,152kg
売却金	39,230円	59,985円	46,902円	72,651円	(179,538円) 218,768円

リサイクルとは

リサイクルという言葉は、「廃棄物の再利用」といった意味あい
で用いられてきました。すなわち、
生活用品を簡単に「ごみ」として捨て
てしまうようなことをしないで、
売ったり交換したりして生かして
最後まで使い、そうすることで、
省資源・省エネルギーを図ろう…

それはまた環境の汚染を防ぎ、地
球環境を守ることに通じるのだと
いう考えや運動を指していました。
しかし、今日、ごみその膨大
としか言いようのない量となつて
その処理、処分が行き詰まりをみ
せはじめると、ごみそのものの減
量を目指す必要がなくなつて
きました。非常に深刻なのです。
ごみとしてどんどん捨て去られ
ている「製品」は、用済みになつ

ても依然として資源としての価値
をもち続けているのに、一方では
地球から処女資源を取り続けている
のは、まさしく地球破壊につな
がるという認識もまた深まってい
ます。

地球から取り出した初めの資源
を供給して人の暮らしや社会の経
済活動に役立てて行く道筋を「動
脈」とすると、用済みになって廃棄
される道筋は「静脈」というよう
に人体にたとえることができます。
するとそれは、肺を経て再び動脈
に流れる大循環のイメージに重な
ります。これがリサイクルです。
すなわち、使用済みの製品を回
収、処理して再び資源として製品
化の流れに乗せる、そんな社会の
システムを作り上げようというね
らいです。

リサイクルの主角

アルミ缶と古紙

アルミニウム

アルミニウムは再生の面で優れ
た素材です。再生しても品質が変
わらず、何回でも再生利用が可能
で、そのうえ「軽い」、「よく冷
える」というメリットが多いため、
飲料缶の容器の大部分をアルミニ
ウムが占めています。
ところで、アルミニウムのこと
を「電気のかん」とか、「電気のかん

詰」などと
よぶのをご
存じですか。
これはアル
ミニウムの
製錬に、多
くの電気が
使われるか
らです。と
ころが、ア
ルミ缶など
を溶かして再生すれば、新たにア
ルミニウムをつくるのに比べ、わ
ずか三％のエネルギーしかかかり

